

第32回「大津市図書館協議会」の会議結果

- 開催日時 令和6年7月26日（金）13時30分～15時30分まで
- 開催場所 大津市立図書館 読書室
- 出席者 委員6人・事務局9人・計15人
- 傍聴者 無
- 次第
 1. 開会
 2. 市民憲章斉唱
 3. 挨拶（今井会長）
 4. 挨拶（図書館長）
 5. 議事
 - (1) 令和6年度大津市立図書館事業概要について
 - (2) 「大津市図書館事業計画」にかかる令和5年度事業評価について
 6. 報告事項
 7. 閉会

●会議の概要（発言内容については要旨を記載）

◎議事

〔議題1 令和6年度大津市立図書館事業概要について〕

・事務局説明

委員 70代以上の方の貸出が下がった原因は何か。

事務局 コロナ禍前は貸出冊数が多かったが、図書館でコアな利用者層が、感染拡大を心配されているのではないかと推測している。本を借りに行くという行為が生活の中で減ってきている。コロナで生活スタイルの変化が定着しつつあるのではないかと推測している。本を返したときに新しい本を借りていたのが、本を借りに行かない生活様式が出来ているのではないかと思う。

委員 （若年層の利用が微増していることを踏まえ）若者たちが図書館を利用する状況が増えてきているのではないかと推測している。有難い反応かと思う。

事務局 令和5年度からX（旧Twitter）を始めた。一日に一回、図書館の催しもの案内だけでなく、館内展示の資料案内や新しく入った本の紹介など様々な情報を頻繁に発信している。何かのきっかけで図書館に来られた人が、もう一度来ようと思ってくださっているのもある。また、読書室の利用を再開したこと、ついでに本を借りられることもある。さらに、コロナで中断していた小学校の図書館見学を再開したことにより、見学の際に子どもたちに本の貸出体験をしたということもあった。また、図書館見学を契機に一度図書館に来た子どもたちが、一度来たいと思って親子で利用

いただいていることもあるかと思う。本の貸出がコロナ前より減少している状況については、もうしばらく様子を見ていきたいと思う。

委員 デザインが変わった新しい「さざなみ号」がやってきたり、「ミッケル号」を楽しみにしているという声を聞く。車体が新しくなったことで、走っているだけでアピールできている、周知できていると感じる。

委員 「ミッケル号」は幼稚園や保育園を細かく回ってくださっている。かつては高齢者が手提げ袋を持って来ていっぱい借りていく人がいたが最近は見ない。時代に合わせたやり方が必要なのだろう。以前は、「ミッケル号」が来たら子どもたちは本を借りる習慣になっていた。みんなが借りるから私も借りるみたいになっていて親としては有難かった。

事務局 たくさんの本がある中から選ぶことができ、子どもたちにとっても楽しく良い経験になっている。「さざなみ号」は大きいので本をいっぱい載せることができるが、運行に小回りが利かないことが難点。また、駐車場スペースの確保も必要なことから幼稚園や保育園には巡回が難しい状況である。

〔議題2 「大津市図書館事業計画」にかかる令和5年度事業評価について〕

活動目標① 市民の学びに応える図書館

・事務局説明

委員 貸出冊数と蔵書冊数の数字が未達成だったから自己評価はB評価とされているのか。目標値は令和4年からずっと同じだが、目標が現状に合致していないのなら目標を改めたほうがいいのではないか。すごく努力されていることが評価に反映していないのではないか。

委員 評価は利用者の満足度によるアンケートが必要であると感じている。図書館へ昼間に行ったら65歳以上の男性が多かった。この世代の人たちの居場所になっていること、これはこれで意味があり良いと思う。夏休みの図書館は子どもたちでいっぱいなこと、これもいいと思う。冊数や来館者数の数値でなく、様々な年代の学びや情報拠点として利用されている、こういうことで評価してもいいと思う。

委員 利用者の多様なニーズに対応するために、蔵書の充実やデジタルコンテンツの導入などをされている。一方で、貸出冊数が伸び悩んでいたり、電子図書の利用者が一部の年齢にとどまっていることが課題と思う。情報提供のあり方や周知方法など手段を考える必要がある。

委員 貸出冊数を基準とすることは全国的な調査の基本であるので指標から外すことは難しいが、見直しは必要である。市民のニーズに応えるため大津市の図書館は努力していることは評価できるが、数値目標が達成できていないことから、これからの期待度を込めてB評価としたい。一方で目標値については今後見直しを考えてほしい。

委員 来館者数は増えているけれども、本を借りる人が増えていないということは、読ん

で帰る、借りなくてもいい人にとってはそれで満足されているのではないか。

委員 貸出冊数にこだわるのであれば、例えば65歳以上の人が多いのであるならその方たちをターゲットにした本や、人気のある本を並べれば貸出冊数が増えるのではないか。しかし、この指標にこだわりすぎる必要はない。

委員 どの年代の数値が上がったのかも重要だと思う。年齢別の貸出冊数は調べられるのか。

事務局 令和5年度では若い人が増えている、嬉しい傾向となっている。若い年齢層で増加傾向にあるのは十分に分析できていない。今後も年齢別の利用状況を見つつ、70代以上の方にどのようにアプローチするのも検討したい。全年齢層で図書館を利用する人が増えていくようにしたい。

委員 貸出冊数という指標にこだわる必要はない。指標の見直しについても検討してほしい。B評価としたい。

活動目標② 誰もが利用できる図書館

・事務局説明

委員 市全域での取り組みを評価する。高齢者への取り組みについては福祉部署との連携を含め、社会教育の組織とも協働して進められるよう検討されればよいと思う。バリアフリーの取り組みが充実してきていることが良いのではないか。

委員 学校として、団体貸出は助かっている。空いた時間に本を読むように言っても本が嫌いな子どもは図書室に本を借りに行かずに遊びに行ってしまうが、教室に本が置いてあると身近に本があることで、読みたい本をすぐ選べるし、自分の手元に持ってきてすぐ読める。身近に本がある環境を整えられるのは良い。また、本好きな子どもにも近くに良い本があると、さらに読書への興味・関心が広がっていく。どんどん広めてほしい。

委員 障害の有無やどのような障害をお持ちなのかにかかわらず、図書館に来られる方、子どもから高齢者まで、誰もが利用できる図書館であるために、移動図書館車や電子図書の促進などでいつでもどこでも本に触れられる資料の充実の取り組みができていたかと思う。また、これらの取組が来館者数に繋がっている。図書館は生涯学習の中心機関ですから、市民の学びを支えるように今後も活動いただきたい。A評価とする。

活動目標③ 魅力あふれるまちづくりを支える図書館

・事務局説明

委員 地域に住まう人の活動をバックアップするように、カメラマンや地域で活動している人の紹介を図書館が発信しているのは評価できる。

委員 私はこれらの活動や取組を知らなかった。X（旧 Twitter）をしていなければわか

らない。良い取り組みをされているのに周知がされていないのではないか。広報などでの周知に課題があると思われる。

事務局 図書館での催しや行事等は、X（旧 Twitter）からの発信だけでなく、ホームページやちらし、LINE、また、図書館の広報紙や広報おおつを活用して発信している。様々な媒体を通して情報発信に努めているが、課題は図書館への興味・関心のない方やこれまで図書館を利用されたことのない方へどのように届けていくかだと思っている。

委員 地域の民生委員の集まりで、図書館の方が来て読み聞かせをしてくださるとのこと、普段から図書館に行かない人も興味を持ってもらえているようだった。子どもたちに本の楽しさをどうやって伝えるか、それをお母さんお父さんがどうみられるか研究しておられる、素晴らしい取り組みだと思う。

委員 郷土に関する本の情報が古い。廃業している店舗情報が掲載されている内容だと誤った情報が提供されることに繋がってしまう。除籍など資料の精査をしてほしい。

委員 老舗といわれるところが店を閉めている。市民の方にとっては最新情報が欲しいところだ。

委員 郷土に関係する資料の充実は難しい。古いものが多く、あまりない。

委員 大津市は歴史もあり、文化財も多い。利用者に対して市関係課及び公共機関と連携したテーマ展示やイベントなどの開催といった図書館サービスを展開されていることから、市民に多くの情報を提供できている点は評価できる。郷土資料、地域資料の発掘により新たな資料の発掘など、今後も取組を継続して行って頂きたい。A評価で良い。

活動目標④ 子どもの育ちを支援する図書館

・事務局説明

委員 学校司書が配置されていない学校図書室（館）に対して、図書館からどのような働きかけや支援をされているのか。

事務局 学校図書館司書は学校教育課が配置している。図書館では、学校図書室の整備について、学校が希望する内容について相談や依頼を頂ければ、学校に出向いて選書や除籍本の選択等の「学校図書館リニューアル支援」を実施している。学校司書や図書館担当の先生とともにその学校の図書室について考え支援している。

事務局 人件費など予算の面からも学校司書の人数を増やすことができない。今年度から地域で読書活動に励まれている方を学校図書館のお手伝いをしていただく体制を構築している。県でも子ども図書館を立ち上げており、運営面などのサポート体制を構築している。

委員 うちの子は本が嫌いですが、スタンプラリーなどには参加している。本を読む子は勝手に読む、本を読まない子どもたちにどう興味を持たれるようにするのがポイント

ント。私は性教育を推進しているが、性教育には絵本がわかりやすく良いが、図書館のどこにあるのかわかりづらい。家庭教育、親子で読む本など、例えば、あやとりとか親子で取り組んだら楽しいコーナーを作ってもらえると嬉しい。

委員 私の場合ですが、以前、学校図書館は学校の管理上過去に閉鎖していたこともあった。昼休みに本を読んでいたら、担任の先生から「天気がいいのにこんなところで本を読まずに運動場で遊びなさい」と言われたことがあった。学校で本を読むことはマイナスのイメージの時代があったように思う。また親が読書に対する興味を持っていなければ、子どもも図書館を利用する機会がない。図書館が楽しいところであることを知ってほしいが、学校も人手不足という理由があるのか。学校と図書館が連携して小中学校での読書を根付かせる取り組みはされているのか。

事務局 大津市では子ども読書活動推進計画を策定し、各分野担当で子どもに関わる身近な大人たちに対し、読書の大切さを理解していただくよう、情報提供や啓発活動を行っていくよう取り組んでいる。また、団体貸出や児童館等でのおはなし会などを通じて保護者にも読み聞かせの大切さを啓発していく取り組みをしている。

事務局 和邇館では、団体貸出で小学校に温度差が感じられる。例えば、和邇小学校では子どもが団体貸し出し用の本を選びに来ており、楽しみながら選書している様子がみられる。また、幼稚園から小学校に上がってきた子どもたちはミッケル号になじみがあるので、小学校でも利用する傾向にあるように感じる。

事務局 北図書館では移動図書館がないので、職員が出向いている。堅田小学校の図書室には司書2名が出向き、支援活動を行った。

学校図書館支援は、堅田小学校の先生から依頼して頂いた。県内の図書館関係職員と学校の図書担当教諭の交流会で本館が相談を受けていた経過がある。

委員 子どもを図書館にいざなう取り組みをやってほしい。図書館から、掲示物やスタンプラリー等を学校に提案して、図書室に足を運べるような工夫を提案してほしい。図書館にはいなくても、学校の図書室に行ってみたら面白かったとなれば、今の状況も変わってくるのではないか。

委員 学校教育とのより密接な連携を期待する。デジタル社会における学習支援、デジタルシチズンシップ教育が大事だと思う。子どもたちが読書に親しむことは重要なので、学校司書の配置が十分でない現状では図書館に期待する。

委員 図書館見学を復活してもらったことで、見学後、子どもたちは楽しかったと話していた。見学の前に図書館の利用者カードを作成していただいたことが重要で、これを機会におうちからも図書館に連れて行ってもらうようになる。

事務局 子どもたちはわくわくしながら館内を見学していた。

委員 子ども読書活動推進の展開に結び付けていく契機になっている。継続した良い取り組みとともに子どもに興味関心を持たせる企画や催しなど創意工夫をしたサービスを展開されている。今後も引き続き取り組んでいただきたい。評価はAとする。

活動目標⑤ 市民とともにつくる図書館

・事務局説明

委員 協働事業者数について、北図書館が多いが状況を教えてほしい。

事務局 個人登録としてボランティアに来てもらっている。個人も団体も1でカウントするためである。

委員 今年の本館の目標増は個人を増やすのか。

事務局 個人のボランティア活動として、としょかんまつり等事業の運営支援のボランティアを募集する予定である。また、これまでと同様、読書サークル等との協働事業は、令和6年度も継続で実施する予定である。

委員 個別のボランティア活動だけでなく、市民による図書館友の会などの主体的な活動が醸成されるよう環境づくりに期待する。

事務局 本館には図書館友の会に該当する団体はない。

委員 今、不登校の子どもが多い。図書館を居場所としてとらえると、「市民とともにつくる図書館」の活動に合致するのではないか。

委員 他の図書館を見ると、本を読む場所にたくさんのテーブル、イスがある。居場所としての空間形成等、図書館自身の利用目的の考え方が変わってきているのかと思う。昔は本を借りに行く図書館、今は滞在型の図書館、大津の図書館も居心地のよさそうな空間になってはいるが空間自体が足りていない。居場所としての図書館という方向性も考慮してほしい。

委員 誰もが利用できる図書館、でも駐車場まで歩いていかなければならない状況である。路上駐車している利用者もあり非常に危ない。隣に駐車場がないのは課題である。

委員 図書館は多岐にわたる事業をやっていると認識した。無報酬で手伝ってくれる人をいかに発掘するのか難しい。

委員 図書館は市民活動をしている人に対して協働で出来る事が多くある。ボランティア、市民活動を広く紹介するのも市民とともに歩む図書館の一つの活動だと思う。その人たちが図書館のサービスや活動について広めてくれることにつながる。

委員 各館ともそれぞれの実情に合わせて創意工夫し充実した活動をされている。今後、市民の方と知恵を出し合ってより良い図書館を創っていかれるよう期待する。A評価とする。

これをもって終了。